

渡邊とみ子さん（かーちゃんのカ・プロジェクトふくしま）

■ 活動内容

「かーちゃんのカ・プロジェクトふくしま」で、阿武隈地域から避難された「かーちゃん」(=女性農業者)たちのコミュニティづくりや、地域の食文化の継承をしています。主な活動として、福島市にある「あぶくま茶屋」でサロン運営、弁当や加工品の販売をしています。

■ 活動を始めたきっかけ

私は飯舘村の農家でしたが、同村出身の菅野元一さんが品種改良したじゃがいも「イータテベイク」やかぼちゃ「いいたて雪っ娘」の生産、加工、販売に向けて準備中でした。苦労の末、種芋生産や品種登録の目途がつき、ようやく世の中に出せると思った矢先、原発事故が起きました。汚染によって飯舘村では作付ができなくなりましたが、作付を休むと種が途絶えてしまうため、種つぎをするために作付場所を必死に探しました。そして、平成23年5月に避難先の福島市で畑を借り、作付を始めました。飯舘村の土と全く異なる環境で不安でしたが、芽が出て、実がなった時は感激して涙が流れました。その後、私と同じように畑などが使えなくなり、生きがいを失ったかーちゃんたちがいることに胸を痛めていましたが、以前から地域づくりで関わっていた福島大学の先生から声をかけてもらい、かーちゃんたちの笑顔を取り戻すための構想を教えてもらいました。そして、平成23年10月から具体的なプロジェクトとして開始しました。



「何か活動をする度に支援者がいた。自分は幸せだ。」と多くの支援者に感謝する渡邊さん

自然と会話が生まれるようにという想いで、渡邊さんの「主人が「あぶくま茶屋」入口にくつくてくれた囲炉裏



復興のパイオニア（復興女子編）

■ 活動を通じて思うこと

最初の活動は餅づくりでしたが、震災前から交流のあったかーちゃんたちが集まり、久々に心の底から笑うことができました。この成功をきっかけに次への期待の声が生まれましたが、幸いにも、雇用創出事業による支援があり、かーちゃんたちを雇用して活動を続けることができました。しかし、平成27年3月で支援が切れてしまい、経営的に続けることが難しくなりました。考えた末、一旦は全員を解雇せざるを得ませんでした。活動形態を請負制にするといった工夫で経営改善を図り、活動を継続できました。自分たちの課題に対し自分たちで考えることは大切です。

震災から5年が経ち帰村宣言がなされ、「帰る人」と「帰れない人」の間で分断が生まれているようです。それぞれ事情があるため、どちらが良いのか一概には言えません。私は、作物の種をつないでいくことを最優先しなければならないため、帰りたくとも飯館村には帰れませんが、それぞれを尊重することが必要です。

私のテーマは「つなぐ」ことです。作物の種をつなぐこと、食文化など技をつなぐこと、人と人をつなぐこと、いずれも大事です。そして、今後は「いいたて雪っ娘」を全国に広げたいという私の生涯を通しての夢・目標に向かって前に進んで行こうと思っています。

「[いいたて雪っ娘通信](#)」で情報を発信中です。ぜひご覧ください。

平成28年度、復興庁は、「[『心の復興』事業](#)」を通じ、「かーちゃんのカ・プロジェクトふくしま」の活動を支援させていただくこととしています。



「あぶくま茶屋」では、かーちゃんたちが受け継いだ地域の食文化である菓子や漬物も販売中



皮の色が白いことから、雪のイメージで名付けられた飯館村の特産品かぼちゃ「いいたて雪っ娘」を使ったマドレーヌ(右)と、親しみやすいパッケージ(上)

